

第4章 各区における地域福祉活動の好事例

地域福祉活動をより積極的に推進するため、市内で取り組まれている活動の実践事例の中から、地域において実行・活用する上で参考となる好事例をご紹介します。

中央区 地域一体「協働」の体制づくり～松ヶ丘中学校地区～

エリア内の取組みの一部をご紹介します！

～誰もが気軽に立ち寄れる拠点～

地域のシンボルとして浸透した拠点では、様々な取組みが行われています。現在は、地元の町内自治会館の空き時間を使い、活動が広がっています。

また、大学生ボランティアの拠点にもなっており、地域住民と相互交流が図られています。様々なイベントを手伝う一方で、淑徳大学看護栄養学部の学生による「高齢者インタビュー」では、高齢者は大学生に対して高齢者が過ごしてきた時代背景や価値観を伝えています。これは看護の現場で患者さんと接する時に大変役立つそうです。



➤ 「子ども食堂」
H29(2017)年10月から、淑徳大学看護栄養学部の協力により開催しています。

➤ 「ゆうあい広場」(高齢者向けサロン)

淑徳大学看護栄養学部による「健康教育・栄養講話」、発声、脳トレ、シニア体操等皆さんが興味を持って楽しめるようなメニューを取り入れています。毎回、20～40名程が参加されています。



➤ 「コミュニティカフェ」

午後3時を過ぎると、下校後の子ども達が次々と集まります。いつでもボランティアの方の見守りがあるので、保護者も安心です。おやつを食べながら、宿題を教え合ったり、カードゲームをしたり、それぞれの時間を過ごしています。

➤ 「オレンジカフェ (認知症カフェ)」

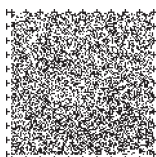
認知症が心配な方やご家族等が住み慣れた地域で生活しつづけるための相談の場、認知症等の病気を学ぶ場として始めました。H29(2017)年10月から、淑徳大学看護栄養学部、あんしんケアセンター等の協力により開催しています。1回目から満員御礼で、継続した取組みが期待されます。

～シニアリーダー体操～

松ヶ丘公民館では、シニアリーダー(※1)による介護予防体操(シニアリーダー体操)を行っています。これは、体操と脳トレーニングを組み合わせた転倒予防・認知症予防を目的とするもので、毎週、多くの高齢者が気軽に楽しく心身の健康づくりに取り組んでいます。

(平成28(2016)年度：参加者のべ1,939人、スタッフのべ244人)

ホームページで随時情報を発信しています⇒<http://matugaoka.jp/> (松ヶ丘中学校地区地域運営委員会)



～高齢者お助け隊～

平成 21(2009)年度から、高齢者の日常的な困りごとの解決をお手伝いする活動を続けています。当初は、様々なメニューを作りましたが、現在は、依頼の多い、庭木の枝落とし、草むしりが主です。以前は、町内会の回覧板で周知していましたが、現在は、周知の必要がないほど地域に定着し、作業依頼が増えています。対象者は、松ヶ丘地区部会エリア在住の高齢者・障害者等で支援が必要な世帯で、利用料金は、従事者1人につき500円/時間です。

～「認知症徘徊声掛け模擬訓練」～

徘徊者役の方に声掛け役の中学生がやさしい口調で話かけています。認知症のある方等が、行方不明になったと想定して、声をかけて安全に保護するための取り組みです。



【円卓会議からはじまり】

平成 18(2006)年度から行政・社協等の補助金を活用し、高齢者や子ども分野の支援、防災対策等地域内諸課題の解決に取り組んできました。その後、少子高齢社会に移行することに伴う諸問題への対応を模索していたところ、県が募集した「連携・協働による地域課題解決モデル事業」(※2)に松ヶ丘地区が選定されました。(平成 23(2011)・24(2012)年度)

この事業では、「安全・安心のまちづくり」の実現を目指して、各団体や大学等地域資源の特性を活かし、地域一体となり「協働」で取り組むことで、地域課題の解決を図るとともに主体的な取り組み体制を確立することなどを目的としました。

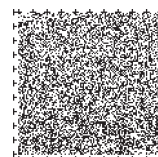
事業内容は、①淑徳大学看護栄養学部との協働での健康相談・傾聴ボランティア事業②地域活動の活性化に向けた人材バンク・地域情報発信事業等の展開③事業の継続に必要な資金調達など、活動基盤強化に向けた研修等の実施でした。

実施にあたり、「円卓会議」(※3)で地域の各団体が毎月顔を合わせて情報・意見の交換を行っています。

このモデル事業終了後も、活動を継続し、平成 27(2015)年5月に松ヶ丘中学校地区地域運営委員会へと移行しました。(※4)

そして現在も、月1回円卓会議を開催しています。連携している淑徳大学看護栄養学部、町内自治会連絡協議会、社協地区部会、民生委員・児童委員、育成委員会、スポーツ振興会、自主防災・防犯の会のほか、小・中学校及びPTA、幼稚園、あんしんケアセンター、病院、等々…多岐にわたり、現在の構成員は43団体です。構成員が、各自の活動内容の報告を行い、地域の課題を把握することができます。縦割りの体制では進まない事柄も、皆で進めていくという雰囲気が出ており、総合的な地域コミュニティ力を向上させる仕組みが実働しています。

- (※1) シニアリーダー…本書 21 ページ第2章 2 (1) ⑬をご参照ください。
- (※2) 「連携・協働による地域課題解決モデル事業」…地域課題の解決に向け、NPO 等をはじめとする地域の多様な主体が、利害関係のあるなしに関わらず対等な立場で参加し、「協働の力」で問題解決に当たることで、多様な主体による連携・協働の体制を構築することを目的とする。
- (※3) 円卓会議…地域課題に対して社会的責任を持つNPO 等、企業、市町村を含め幅広い分野の団体の参画による。
- (※4) 地域運営委員会…本書 18 ページ第2章 2 (1) ④をご参照ください。



第1章
地域福祉計画とは

第2章
現状と経緯

第3章
計画の概要

第4章
各区の好事例

第5章
地域の取り組み

第6章
市の取り組み

第7章
地域・市の協働・施策

第8章
計画の推進

資料編